

(様式2)

平成30年度 校内研修実施上の成果と課題等

佐世保市立早岐中学校

1 成 果

平成30年度は、昨年度と同様に研究主題を「生き生きと意欲的に学び合う生徒を育成する授業の創造」として、活動する場面、協同する場面、表現を共有する場面等を授業に仕組むことで、他者との関わりを重視し、より質の高い学びを目指した。

本校は全体的に学力の低い生徒が多く、従来の一斉授業型では学習意欲すらもない生徒もいるが、「グループやペアでの学習（協同的な学び）」を各授業において意識して取り入れることで、下位の生徒が緊張することなく「わからない。教えて。」や「どうすればいいの。」という声を発することができるようになり、それに答える生徒もわかりやすく説明しようとする姿が見られ、互いに学び合うことができるようになった。

これは、教職員の異動がありながらも、「グループやペアでの学習（協同的な学び）」に関して「年に2回、外部講師を招いて全体研修を行う」ということを本校が6年間継続してきた何よりの成果であると考えられる。実際に、2月下旬の外部講師による全体研修会での指導助言において、「全学年とも過去最高に落ち着いていた」という言葉を頂くことができた。

また、現職教育では、心の状況調査の分析やICT活用などをはじめとして様々な研修を行い、日々の生徒理解と効果的な指導・支援や授業スキルの向上に役立てることができた。

2 課 題

昨年度末、本校勤務が長かった教職員の大量異動があり、研究主任である自分を筆頭に「協同的な学び」に関しての理解が不十分な者が大多数という状況であったため、研究を強く推し進めることができなかった。そのため、職員によって取り組み方に温度差が出てしまった。

研修部の担当者が定期的に集まれるような時間設定が時間割上になく、研修内容について相談する場がなかったため、円滑に運営していくことができなかった。

3 「成果」と「課題」を受けて来年度の校内研究で継続して取り組む事項

「グループやペアでの学習（協同的な学び）」に関して、従来のような形式で外部講師を招いての研修を継続していくかについては、今後、現職員の意向も踏まえて決定していこうと考えている。この6年間で本校が積み上げてきた「学び合い」の成果はあるので、来年度は学習規律との兼ね合いや道徳の教科化も考慮に入れながら、良いところを残していきたい。